

以上天平二年庚午夏六月、帥大伴卿忽生瘡脚、疾苦枕席、因此馳驛上奏、望請庶弟稻公、姪胡麻呂、欲語遺言者、勅右兵庫助大伴宿禰稻公、治部少丞大伴宿禰胡麻呂兩人給驛發遣、令看卿病、而逕數旬、幸得平復、于時稻公等、以病既瘳、發府上京、於是大監大伴宿禰百代、少典山口忌寸若麻呂、及卿男家持等、相送驛使、共到夷守驛家、聊飲悲別、乃作此歌、

〔萬葉集二十〕二月○天平勝寶七歲七日、駿河國防人部領使守從五位下布勢朝臣入主進九日歌數二十首、

但拙劣歌者不取載之、○中略

爾波奈加能阿須波乃可美爾古志波佐之阿例波伊波波牟加倍理久麻低爾、

右一首、帳丁若麻績部諸人、

〔本朝世事談綺五雜事〕鹿島立

旅立前之日、阿須波明神を祭、此神鹿島に鎮座あるゆへなり、神をたて神酒備餅を以旅の安全を祈る、○中略此神へ御饌をさ、げていのるに、旅に居る者飢につかれずと也、世俗影膳といふて居るも、此遺風なり、

○按ズルニ、神祇ニ旅行ノ安全ヲ祈請スル事ハ、神祇部祈禳篇ニ載ス、

〔萬葉集二十〕二月○天平勝寶七歲十四日、常陸國部領防人使大目正七位上息長真人國島進歌數十七首、

但拙劣歌者不取載之、

祢布與利波可敵里見奈久氏意富伎美乃之許乃美多氏等伊泥多都和例波、

右一首、火長今○今恐誤奉部與曾布、

阿米都知乃可美乎伊乃里氏佐都夜奴伎都久之乃之麻乎佐之氏伊久和例波、

右一首、火長大田部荒耳、○下略

〔古今和歌集八離別〕源のさねがつくしへゆあみんとて、まかりける時に、山ざきにてわかれおしみ